

チャイルドラインを「あなた」に「つたえる」情報誌

With You

第74号 2022年秋



認定特定非営利活動法人

よこはまチャイルドライン

Tel 045-342-0255 Fax 045-342-0288

<http://www.yokohama-childline.com>



チャイルドラインの果たすべき役割

～これまでも、そしてこれからも～

よこはまチャイルドラインが誕生して20年。設立から代表を務める徳丸のりが語り続けている「チャイルドラインの果たすべき役割について」は、20年間変わることはありません。

一貫した思いと、子どもたちへのあたたかいまなざし。今回は、彼女の言葉を通して、私たちにできることは何かを、あらためて考えます。

「あたたかい他人」を目指して

——パンデミックからやがて3年。コロナも日常となってきました。チャイルドラインはコロナ禍でも可能ながぎり、開いてきましたね。

徳丸 先日発表された2021

年度の不登校の子どもたちは、24万4940人、過去最多を更新しました。20万人を超えたのは初めてで、前年度からの増加率も25%で過去最大。文部科学省は、コロナ禍で学校活動が制限され、登校意欲が下がったなどと分析しています。

そんな子どもたちのところを少しでも受けとめたい、おとなとしてできることをやりたいと思つて、よこはまチャイルドラインは活動してきました。そう、子どもたちが、だからからジャッジされず、安心・安全な場所と思い切りこころを解放して、自分の思いを吐き出す。そして、その気持ちは必ずだれかが受けとめる。

コロナで傷ついた子どもたちのこころに寄り添うことで、また子どもたちに元気になってほしい、豊かな感受性を取り戻してほしいと願つ

て、受け手や支え手は電話の前に座り、子どもからの電話を待つていたのです。

——「だれからもジャッジされず、安心・安全な場所と思い切りこころを解放して、自分の思いを吐き出す。そして、その気持ちは必ずだれかが受けとめる」は、チャイルドラインの活動のキーワードですね。

徳丸 はい、20年間、そのことをやってきました。チャイルドラインはひと言でいえば、子どもにとっては「あたたかい他人」なのです。決して、親や先生の立場はとらない。

日本社会は、経済発展と引き換えに、大切なものを失ってきました。そのひとつが「子どもが育つ環境」です。地域社会は崩壊し、いつのまにか子どもを取り巻く人間関係がやせてしまった。むかしは普通に子ども周りにいて、子どもと積極的に

かわるわけではないけれど、子どもの存在をあたたく見守っていた、祖父母や近所のおとな、知人など、子どもにとっては間接的な関係、つまり「ななめの関係」のおとなが激減してきたのです。

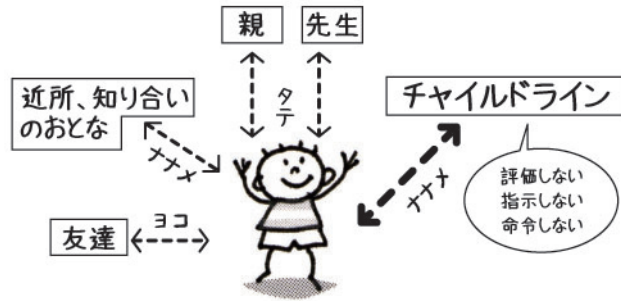
現在、子どもの周りにいるおとなといえば、親や先生など直接的な関係、「縦の関係」のおとなが多くなってきました。もちろん、親や先生は子どもにとってはきわめて大切なひとたちです。責任をもって子どもを育てる。しかし、であるがゆえに、ついつい子どもに期待し、子どもを叱責し、指示命令し、「いい子」にしようとかんばります。もちろん、親なればこそ、先生なればこそ、の思いです。だから、当たり前なのですが。

でも、朝から晩まで、そんな関係のひとに囲まれていたら、やっぱり子どもはしんどいでしょう。子どもは素直で、親や先生の期待に応えようとしてがんばる。「きちんと」「ちゃんと」「早く」と言われつづけると、「ちゃんとシャワーでこころはすず濡れ」になっってしまうのです。

そんなとき、評価もされず、叱責もされず、ただあたたく見守ってくれるおとながいたら、子どもはほっとし、また元気を取り戻すでしょう。

チャイルドラインは、地域社会からなくなってしまうた、そんな「第三のおとな」の役割を果たすべく意識的につくった組織なのです。だからどんなことであっても、「叱らない」「指示命令しない」「評価しない」。子どもにとっては、「ななめの関係」で、子どもをまるごと受けとめる。決していい子でなくてもいい、悲しい、さみしい、つらい、うれしい、楽しいなど、ありのままの子どもをそのまま抱きしめる。そして、何かあったら、子どもと一緒に考える。

いうまでもなく、子どもの育ちには、叱ってくれるひと（縦の関係のおとな）、見守ってくれるひと



と（ななめの関係のおとな）、どちらも必要不可欠なのです。なるほど。チャイルドラインの存在意義がしつかり伝わります。大切なことです。よね。

徳丸 はい。チャイルドラインは、子どもにとつての「サードプレイス」で、家でもなく学校でもない、子どもたちの「こころの居場所」でありたいと願っています。

「助けて」は希望の言葉

徳丸 チャイルドラインのミッションは、「子どもの声を受けとめる」なのですが、もうひとつの大切な役割は、「受けとめた子どもの声をそのままにせず、社会に

伝える」ことです。チャイルドライン4つの約束は、「名前は言わなくていい」「秘密は守るよ」「どんなことでも一緒に考える」「いやになったら切つていい」です。で、子どもの声を社会に伝えると、子どもとの約束を破ってしまう、と考えるひともいないわけではありませぬ。

しかし、子どもの声を聞きつばなしにしていたのでは、子どもを取り巻く社会の状況を変えることはできません。生きづらさを抱えている子どもたちの現状をおとな社会にきちんと伝え、子どもたちが生きやすいようにしていくことは、もうひとつのチャイルドラインの重要な役割なのです。チャイルドラインは子どもの意見を社会に伝える「子どもの声のマイク」にならなければなりません。いわゆる「アドボカシー」ですね。

もちろん、そこには配慮が必要です。子ども個人が特定されないような情報の出し方をしなければなりません。「子どもの声はプライバシーに配慮して、再構成して

います」などの文章をつけ、ホームページや情報誌、講演会などで、できるだけ子どもたちの声を社会に伝えていくのです。

そして、行政や他団体、企業や市民のみなさんと「子どもが生きやすい社会をつくっていく」ことも、わたしたちに課せられた重要な役目です。

——いま、いじめや虐待、不登校や性の問題など、生きづらさを抱えている子どもたちが急増していると言われていますね。

徳丸 そうですね。ひとつは、社会の分断が進み、先にも述べた子どもの周りの人間関係がやせてしまい、自分のつらさや悲しみを吐露できる場所が少なくなりました。また、小さな胸に不安を抱えて毎日を過ごさざるを得ない。チャイルドラインに電話して、「大丈夫だよ」って言ってもらっただけで元気になる。



人間はひとりでは生きていけないのに、ひとりで生きていける社会をつくってしまった。

そこでは助け合うこともないので、「助け合う」という精神が育ちません。自己責任という言葉に象徴されるように、なにごと自分分の責任、という風潮になってしまいました。おとなでもしんどいのに、小さな子どもは言わずもな、でしょう。

もちろん、ひとにばかり頼るのも問題ではあります。問題を自分ひとりで抱え込むのもそれ以上のリスクがあります。

わたしは最近、貧困の実態をみますところなく描いた「夜が明ける（西加奈子著）」がたいそう勉強になりましたが、最後の希望が「助けて」という言葉でした。「助けて」と言うことは恥ずかしいことでも何でもありません。助け合って生きる、それは人間本来の姿なのではないでしょうか。

チャイルドラインも子どもにそんな精神を伝えたい、そして子どもが SOS を受けとめるひとつでありたい、と思っています。

子どもをリスパエクトできるのか

——子どもの声を聴くというのは、どんな意味があるのでしょうか。

徳丸 はい。これは、みなさんにぜひ知ってほしいんです。ただ子どもの声を聴くって、何の意味があるの、と思われる方もいらっしゃると思うんですが、これがじつに奥が深い。わたしも、チャイルドラインをやって、はじめてわかったことなんですけれど。

まず、子どものほうから見ても、おとなでもそうですが、このころのなかにモヤモヤしているものがあって、それを吐き出したら「①こころが軽くなる」でしょう。子どもだって同じ、つまり、癒しとしての効用ですね。それから、電話の受け手が上手に話を聴いていくと、子どもは「②自分の状況を整理できる」んですね。子どもって、順序良く問題を時系列で把握することが不得意な子どもも多く、すぐ前のことしか考えられないんです。そんなとき、受け手が過去にさかのぼり、ひとつずつ

確認しながら聴いていくと、子どもは問題の本質を理解し、自分の問題を自分で解決していこうという気持ちになる。これは、生きていくうえで大切なことです。

それに、たとえ電話であっても、知らないおとなと会話すること、子どもがグンと広がります。親や先生など限られた人間関係のなかで生きている子どもにとっては、「③いろいろなおとなと接する機会になる」んですね。チャイルドラインであたたく話を聴いてもらい、自分のことを大切に思ってくれるおとなに出会ったら、電話であっても、それは子どもを支えることになります。

さらには、いまの子どもたちは、「自己肯定感が低い」「コミュニケーション能力が低い」と言われますが、チャイルドラインは、叱らず、指示命令せず、評価せず、子どものどんな話でも受けとめるので、子どもは「こんな自分でもいいんだ」と思って、「④自己肯定感の醸成に役立つ」のです。また、受け手とのいいねいやりとりはもちろん、「⑤コミュニケーション

ン能力の喚起」にもなりえます。

最後に、子ども自ら「⑥聴くことを体験として学ぶ」ことができません。人間はいたってシンプルで、聴いてもらったことは脳が記憶し、そのまま聴ける人間をつくります。聴けないおとなは、聴いてもらった経験がないのです。人間が実際に体験することは、それぞれの効果をもたらします。ひとつの話を聴ける人間が増えることは、きつと生きやすい世の中をつくるのではないのでしょうか。

——それは、素晴らしいですね。

徳丸 ええ、でも、いまは子どもの声を聴けるおとなはそれほど多くはありません。チャイルドラインの受け手も、養成講座の前期後期を受け、面接を経て、インターンを1年間やってもらいます

子どもの声を聴くには、それだけの準備が必要なのです。まず、子どもをひとりの人間としてリスパクトできるか、ということですね。つまり、若いも若きも赤ん坊も障がい者も性別も、お金があってもなくても、肌の色が何色であろうと、職種や立場がどうでも、この

世にいるどんな人間も同じ重さで地球に存在する、という人権意識を自分の芯に持っているか、です。

この人権意識がないひとは、子どもの話をうまく聴くことができません。自分は聴いたつもりになっても、子どもはそんなひとに話すわけもなく、自分から電話を切ることもあります。

残念ながら、日本は「子どもは半人前」「子どもはおとなの供えもの」という意識が強く、「子どもの人権」についての認識が低いのです。

コルチャック先生を輩出したポーランドから出された「子どもの権利条約」は、1989年11月20日、国連総会において満場一致で採択されましたが、日本は1994年4月22日批准、5月22日に発効しました。なんと、世界で158番目という情けなきなのです。

そして、2010年には、国連子どもの人権委員会から「驚くべき数の子どもが情緒的幸福度の低さを訴えている」として、条約が浸透していない、機関間の調整

が不十分、プライバシー・体罰や虐待などの問題、教育システムへの懸念、子どもと一緒にシステムづくりをするなど、日本政府は報告を受けたのです。

それから12年、果たして子どもの権利は社会に浸透したのでしょうか。コロナ禍での一斉休校宣言や、コロナ禍での子どものニューズがなかったことなど、子どもの人権が大切にされていない日本であることが露呈してしまいました。

じつは、チャイルドライン活動の基盤となっているのは、「子どもの権利条約」なのです。子どもをひとりの人間としてリスパクトし、同時代をともに生きるパートナーとして、力を合わせてみんなが住みよい社会をつくっていくのです。

じつは、奥が深い

——「受け手」ととしてのチャイルドラインはどうでしょうか。

徳丸 チャイルドラインの受け手をやるうと思っただきっかけを聞く

と、当初はほとんどのひとが「子どもの役に立ちたい」と言いますが（①支援者としてのかかわり）、1年も経つと「とんでもない、わたしのほうが子どもから学ばせてもらっています」と答えます（②学びの機会）。そういうひとが受け手として残るといってもかもしませんが、子どもの声を聴くという活動は自分のころも見つめ直す作業ですから、内的成長につながり、したがって、人生のゆたかさにもつながっていくのです。

「チャイルドラインで感じるのは、『会社・家庭以外に自分の居場所をもつことの大切さ』『自分が活かされていると実感できる場所があることの大切さ』です。わたし自身は、『社会貢献というより自分のために活動している感じ』です。活動を通してたくさん気づきがあります。いっしょに考え、誰かの気持ちに寄り添うことで、自分が活かされていると感じ、とてもパワーをもらえています。

また、家と会社の往復では決して出会うことのない、さまざまな

経験をもっている方と出会えました。さまざまな職業・立場、私より年齢が上の方が多く、子育てや人生の先輩で、合間に私自身の話を聞いてもらうこともできる、貴重な場なのです。

チャイルドラインは私自身にとって、仕事の後疲れていても、パワーを充填してもらえるところになっていきます。自分自身が心地よく、それが社会貢献にもつながっているというチャイルドラインの活動は、本当にありがたい場なのです」(受け手 B さん)

この言葉は、受け手ボランティアの本質をみごとに言い表しています。決して一方通行ではない、ともに学び、ともに生きていくのが、同時代を生きるわたしたちの人間としてのありようなのでしょう(③)ともに生きる社会づくり)。

そう考えると、チャイルドラインは「新しい公共」「新しい共同体」とも言えるのではないのでしょうか。行政、企業、NPO、市民などすべてのひとが力を合わせて、おとなも子どもも住みよい社会を

つくっていききたいですね。

変わらぬ思い

——今年、20年という節目の年です。これからの夢や希望を聞かせてください。

徳丸 月日の流れの速さを感じます。子どもの生きる世界が良くなるようにと願って、チャイルドラインを始めたのに、良くなるどころか、ますます生きづらさを抱える子どもたちが増えてきています。わたしたちの力不足は否めませんが、子どもの問題を子どもとその親、かかわるひとの問題などと矮小化するのでなく、すべてのひとが自分ごととして真っ先に考える「社会問題」として捉えなければならぬと感じています。次世代を育てられない生き物に未来はありませんから。

20年で社会もずいぶん変わりました。スマホが登場して10年足らず、わたしたちに浸透し、暮らし方さえ変えてしまいました。進化のスピードは一段と増し、これからの20年はどうなっていくのか想

像もつきません。

ただ言えることは、時代に合わせる子どもニーズも変化していきますので、チャイルドラインも常にアンテナをはり、子どもに選ばれつづけるチャイルドラインでなければならぬということですね。いくら電話が素晴らしいと言っても、子どもが利用しなかつたら意味がない。ただの自己満足に過ぎません。

オンラインシステムを使ったチャイルドラインらしい事業をどう展開していくのか、そこにリアルコミュニケーションである電話をどう絡ませていくのか、わたしたちに課せられた喫緊の課題ですね。もちろん、行政や他団体との連携も必須になってくるでしょう。



■徳丸 のり子(とくまる のりこ)
熊本県出身。大学卒業後、学校教員を経て、フリーの編集者となる。2000年よこはまチャイルドラインの立ち上げにかかわり代表理事に。2006年子どもセンターてんぼの立ち上げにかかわり理事に(2018年まで)。座右の銘は「たとえ明日地球に終わりが来ようとも、わたしは今日木を植えよう」

しかし、時代は変わっても、変わらないもの、変えてはいけないものもあります。チャイルドライン活動の根底に流れる「思い」「哲学」ですね。それは、すべての子どもに対しておとなの思いにほかなりません。そう、「子どもの笑顔がいちばん」「困っていたら、きつと助ける」「チャイルドラインは子どもの味方」という、至極当たり前のことです。

どのようなコミュニケーションツールを活用するにせよ、チャイルドラインは、常に子どもに寄り添い、子どもの声をしっかりと受けとめ、子どもがほっとできる「こころの居場所」であり続けたいと願っています。

——本日はありがとうございました。(聞き手/山崎佳奈)

考えてみよう!
SDG's

よこはまチャイルドライン × クローバー (生活介護事業所)

よこはまチャイルドライン (以下よこちゃ)では、神奈川県内の小中学校、高校、特別支援学校に毎年70万枚のカードを配付しています。

各学校に在籍生徒数分のカードを梱包して送るのですが、学校が全校生徒に配る際、学校に多くの手間をかけさせる訳にはいきませんので、すぐに学級人数分に分けられるよう、よこちゃの方で、10枚ずつのカードを互い違いに組み合わせた100枚を1つの束にして、利用するポストなどの規定に沿った大きさと厚みに揃えて送っています。



▶受け手が活動の合間を縫って作業をしています

作業自体は単純ですが、なせ70万枚ですから人手も時間もかかり、なかなかの作業負担です。

あるイベントで、戸塚区に拠点を置く社会福祉法人クローバーの高橋理事長の話を聞いたよこちゃのスタッフはひらめきました。法人の持つ事業所のひとつに生活介護事業所があります。(生活介護事業所とは、常時介護を必要とする障がい者を対象に、創作活動や生産活動の機会を提供する通所施設です。)ここにカードの仕分けを障がい者の方々の仕事として発注できないだろうか、と考えたのです。さっそく打診したところ快諾していただき、仕事として正式に依頼することになりました。

聞けばこの作業が、通所者

の多くに適した作業だったこと、仕事を担うのはもちろんのこと、「子どもたちの役に立つ」ということが彼等のモチベーションを大いにあげているというのです。

そこで10月下旬、作業所を訪問し、彼等の作業風景取材してきました。

知的障がいの方のために、職員の方が試行錯誤して作ったという台紙に、一枚一枚カードを乗せていきます。こうすると確実に10枚の束ができます。それをさらに10個並べて100枚の束を作るのです。

黙々と作業する方もいれば、カメラに照れてしまつて隠れ

てしまう方もいて、作業所を少しざわつかせてしまいました。が、みなさんが一生懸命作業に取り組む姿を見ることができました。

料理用のはかりを使って重さで枚数の確認をしたり、カードの重なり防止に付箋ののり部分を利用するなど、さまざまな工夫を凝らして取り組んでいるのが印象的でした。

今ではカード作業をしたいと申し出てくれる利用者さんも多くなってきたとの嬉しい報告もありました。

これからもここで得たつながりを大切にしていきたいと思っています。



▶一枚ずつ丁寧に並べて10枚の束を作る



▶作業に集中するみなさん



▶重さで枚数の確認をするアイデア

よこはまチャイルドライン 電話利用状況 2022年5月～9月

主訴	5月	6月	7月	8月	9月
学校 フリースクール	77	74	35	30	48
部活	5	3	5	2	2
性	49	83	55	73	46
家庭	33	25	24	37	16
職場	0	0	3	0	0
ネット トラブル	4	2	1	2	2
地域	8	7	11	2	2
自分	110	102	139	124	87
不明	762	553	587	696	595
累計 (会話成立率)	1048 (27%)	849 (35%)	857 (32%)	966 (28%)	800 (26%)

はい、チャイルドラインです。

「無言電話であっても」

「はい、チャイルドラインです」
出た瞬間にまた、プチッと電話が切れてしまった。無言電話である。今日はこれで何件目だろう。男の声だったから、電話の出方が悪かったから、と考えてしまうこともしばしばだ。

もしかしたら、男の受け手には話しくらい雰囲気があるのかもしれない。電話をかけることができて、話す勇気がないのかもしれない。イタズラで何回もかけていることもあるかもしれない。でも、電話の向こう側の子ども

想いを想像してみると、たとえ無言電話であっても、一回一回意味があることなのだと思うようになった。無言であっても、電話がつながることとかけ手にとってなんらかの意味があるのではないか。イタズラだとしても、それでなんらかのうっぴんを晴らすことができたのかもしれないし、電話がつながるだけでかけ手のなんらかの変化を生むことができたりもするかもしれない。

そう考えると、たとえ無言で切れてしまっても、今日も「はい、チャイルドラインです」ところをこめて電話に出ようと思う。



RECOMMEND

By. 猫のみみ

Book

心の病にかかる子どもたち

著/水野 雅文 (朝日新聞出版)

2022年度から、高校の保健体育で精神疾患(うつ病、統合失調症、不安症、摂食障害)の授業が始まりました。

実は、精神疾患というのは15才から35才くらいの若い世代に多く、思春期に発症する病気なので、早期発見、早期治療が大切になってきます。身近にいる親や先生、友人は、どう接したらいいのか、わかりやすく解説しています。正しい知識を身につけて、病気に対する偏見をなくし、相談しやすくなるといいですね!

小学生や中学生にも、この授業が広がることを願っています。

Movie

家族を想うとき

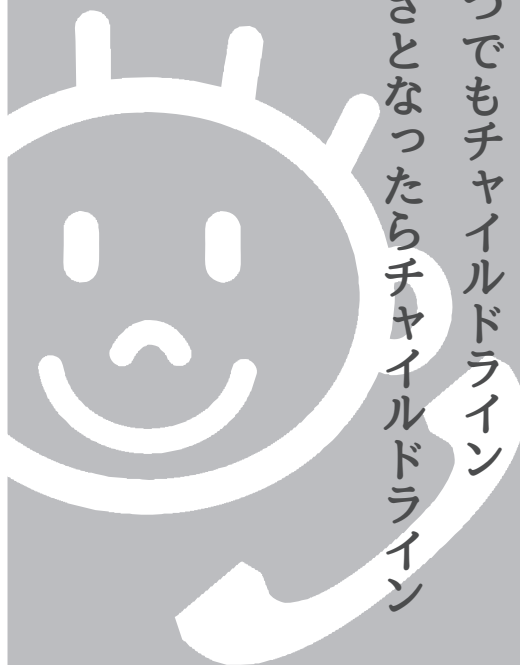
監督/ケン・ローチ

マイホームが欲しい両親は、毎日必死に働いていました。そして、疲れ切った両親の姿をみて、子どもたちの心もずさんでいきました。家族の歯車はかみ合わなくなり、全てがうまくいかなくなりました。それでも父親は、家族のために前に進んでいく……

家族にとって、父親の存在って何なのでしょう。どんな父親だったら、家族は認めてくれるのでしょうか。

この映画をみて、父親についていろいろ考えてしまいました。

いつでもチャイルドライン
いざとなったらチャイルドライン



ご支援ありがとうございます



よこはまチャイルドラインの活動は、多くの方のご支援で成り立っています。
子ども達からのフリーダイヤルの費用など、これからも皆さまからのご寄付が必要です。
どうぞ応援よろしくお願いたします。



2022年5月1日～9月30日のご支援総額

2,322,427円

あなたにもできる社会貢献

● 会員募集 ●

個人	正会員	3,000円/1口	総会の議決権あり
	賛助会員	3,000円/1口	—
法人	正会員	10,000円/1口	総会の議決権あり
	賛助会員	10,000円/1口	—

よこはまチャイルドライン賛助会員の
年会費は、「寄付金」になります

※正会員費は控除対象外です



年会費は何口でも歓迎!

ご入金は郵便局の払込票をご利用ください

※匿名希望の方は、その旨払込票にお書き添えください

□座番号 **00270-6-13812**
□座名 **NPO法人よこはまチャイルドライン**
ゆうちょ銀行 当座 ○二九店13812

よこはまチャイルドラインに寄付すると 「寄付金控除」が受けられます

横浜市の認定NPO法人であるよこはまチャイルドラインへの寄付は、「寄付金控除(税額控除)」の対象となり、確定申告をすることで税制上の優遇措置が講じられます。

所得税

【寄付金の合計額-2000円】×40%が税額控除されます。
※所得税額の25%が上限です

住民税

横浜市在住の方は【寄付金の合計額-2000円】×10%が税額控除されます。※お住まいの自治体によって異なります

相続税

相続または遺贈により財産を取得した方が、取得した財産を相続税の申告期限内に寄附した場合、寄附をした財産には相続税が課税されません

法人税

法人による寄付は、一般寄附金の損金算入限度額とは別に、損金算入することができます。

詳細な手続きについては、最寄りの税務署にお問い合わせください

● 未使用切手、書き損じハガキはありませんか? ●



一年を通じ、神奈川県内の小中高生一人ひとりへチャイルドラインカードを配布しています。その数、実に100万枚。未使用の切手や書き損じのハガキはその配送代に充てることができます。お譲りいただけるものがありましたら、事務局までご連絡ください。ご協力をお願いいたします。(テレホンカードの受付は終了いたしました。)

よこはまチャイルドライン事務局 045-342-0255

編集後記

よこはまチャイルドラインが活動を始めて20年。当時カードをもらっていた子どもたちが、今度はおとなとして、今の子どもたちの声に耳を傾けてくれることを願っています。